

第2日目(7/16) 現地1日目 午前震災遺構伝承館・午後ヤマヨ水産 vol2

午前:震災遺構伝承館/午後:ヤマヨ水産復興支援活 ※訪問先情報はvol1 をご覧ください。



ドラマ撮影で使われた看板



整理作業：分別してます



種類ごとに揃えます



整理作業中・先生も

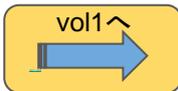


整理場所：before



整理場所：after

生徒たちのふりかえり(vo2)



1年松岡

朝から渋滞で遅れてスタートしました。一部の活動しかできなくなるかと思いましたが無事全てできたのでよかったです。最初に東日本大震災遺構 伝承館を訪問しました。旧気仙沼向洋高校跡を見学しました。壁が壊れたり、窓が割れたりしているのは想像していましたが実際にはもっとひどい状態でした。教室の壁が崩壊していたり、教室の中に車が流れ込んでいたり、コンクリートが曲がっていたり、驚きよりも津波の怖さを感じました。伝承館で最後に中学校の卒業生による答辞の動画を見ました。友達や家族、家など多くのものをなくした子供の一つの言葉の重みを感じました。次に牡蠣ヤマヨ水産に行きボランティア活動をしました。私たちがしたのは主に道具を山上に上げる作業でした。次の大きな災害に備えて道具を安全なところに置いておくのが目的でした。起きた震災への復興だけでなくこれから起きる災害にを事前に備えることも大事だと学びました。災害に備えることは気仙沼だけに限らず全国の人に共通することだと思います。なので今日学んだ災害に備えることをこれから色々な人に伝えて被害を最小限にできるようにしたいです。

2年笛木

約14時間にも渡る長距離のバス移動を経て、気仙沼市 東日本大震災遺構・伝承館に到着し、まずはじめに震災時の映像を見させていただきました。これまでにニュースや新聞で知った情報よりもさらに詳しく、鮮明に映し出されていて、地震・津波の恐ろしさだけでなく、避難の重要性も知ることが出来ました。次に、気仙沼向洋高校旧校舎の見学をしました。校舎のほとんどを見ることが出来ましたが、北校舎の1階～3階の天井や壁は完全に剥がれ落ちており、車が教室に残されていたり、冷凍工場が激突して欠けた外壁を実際に見て津波の威力を目の当たりにしました。また、屋上に行った際には当時の先生方の適切な判断とそれに伴う奇跡を知ることが出来ました。その後、当時の写真を見たのですが、私が特に印象に残っているのは水を汲んで運ぶ少年の写真です。その写真の横には、少年が自分ができることはこれしかないと思い、家族にも言わずにひとり黙々と水を汲んでいたというものでした。この写真を見て、こんなに小さな子でも震災によって家族・友達を亡くし、辛い思いをしている中で誰かのためにと考えて行動することに心を打たれました。自分もこのような立場に立ったら人のために何か出来ることはないかと考え行動していきたいと思いました。最後に卒業式の映像を見ました。この映像を見て、震災を受けたあとでも逞しく生きる人の姿を見て、このプロジェクトに参加してニュースでは知ることではできないことを知ることが出来ました。

牡蠣の養殖場での作業は、バス停から養殖場までの距離が長く、大変でしたが森の中をゆっくり歩くことができ、まるでトロの世界に迷い込んだような気持ちでした。楽しくも長い道のりを歩き、海岸へ出て作業をする際には、ロープが絡まっていて重くて運ぶのも大変でしたが、少しでも役に立てればと精一杯頑張りました。今回の作業は、次に津波が起こった時に最小限に被害を抑えられるようにするためというものでした。このことから津波だけでなく、これからの災害に対しても備えておく必要があると考えました。この作業でお世話になったご家族の方皆さんお優しい方ばかりで、泥まみれになってしまった時には「家の水道で流して行ってください！」と言ってくださいました。地域の人の優しさに触れ、もっともっとこの地域の良さを知っていききたいなと思いました。

